

研究代表者 所属・職：健康科学部 講師

氏 名：中村 泰久

研究課題名：遂行機能と創造性を測定する修正版 The Tinkertoy Test の各年代・性別の標準得点の集積

研究の概要

【背景】

これまで我々は統合失調症 (Schizophrenia; 以下, Sz) の認知機能障害に注目し、遂行機能と創造性の障害が社会適応に関連すると考え、それを測定する修正版 The Tinkertoy Test(以下, TTT)を開発し(中村ら, 2019)、Sz 患者の得点が社会適応を予測する可能性を示した(中村ら, 2017)。修正版 TTT は 50 個の部品から「自由に好きなものを作成してください。」と教示して自由に作品を作る. という自由構成課題を採用した遂行機能と創造性の検査である(図)。本研究ではさらに修正版 TTT の測定精度を高めることで前頭葉機能が低下する各疾患の社会適応を予測する検査としても確立できることが期待できる。

【目的】

本研究で健常者の修正版 TTT の年代・性別別のデータ(標準得点)を得ることを目的にした。これにより Z-score の算出が可能となり、被験者の遂行機能と創造性の水準を判定できる検査に確立できる。

【研究方法】

1) 修正版 TTT の採点マニュアルと採点方法動画を準備し、データ集積の体制構築

データ集積に向けて共同研究者、研究協力者が修正版 TTT の測定ができる様、修正版 TTT 採点マニュアルと採点方法動画を準備してデータ集積の体制を構築した。

2) 健常者の修正版 TTT を含む遂行機能と創造性に関する検査のデータ集積

先行研究を参考に神経心理検査に影響する年齢、性別、教育歴を統制した 20~60 歳代の健常者を各年代 30 名・性別(各 15 名)を収集して合計 150 名を対象に基本情報の年齢、性別、教育歴を取得し、Sz・Dep・自閉症スペクトラム患者と認知機能低下した対象者を除外するスクリーニングをする。その後、遂行機能と創造性を測定するため修正版 TTT、Idea Fluency Test (IFT)、Design fluency Test (DFT) を測定する。得られた各年代と性別に応じたデータを集積し、平均値と標準偏差値を得る。

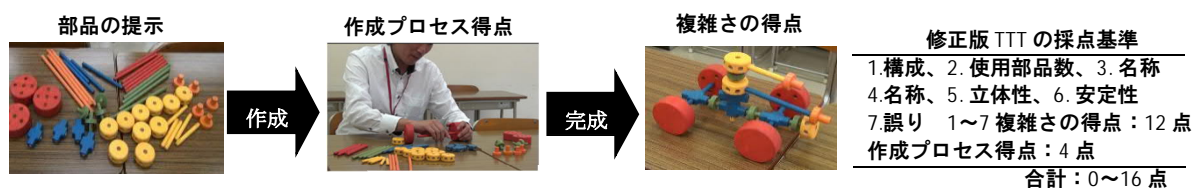


図 修正版 TTT の検査手順・採点基準

1) 修正版 TTT の採点マニュアルと採点方法動画を準備し、データ集積の体制構築

修正版 TTT の各年代のデータ集積のため、マニュアル作成と採点動画作成を行った。その結果、東京都立大学、下総精神医療センターなどの複数の協力施設より健常者のデータ取得の了承を得た。

2) 健常者の修正版 TTT を含む遂行機能と創造性に関する検査のデータ集積

本研究の倫理審査申請した。審査を受け再申請の準備中である。また、新型コロナウイルスの感染蔓延により、対面での修正版 TTT などの各検査を実行する環境確保が難しく進めることができなかった。